

第4学年 国語科学習指導案

児童 男5名 女10名 計15名
指導者 根木地 千佳子

1 単元名 場面をくらべて読もう「一つの花」(光村図書 四年下)

2 単元について

第3, 4学年の学習指導要領「C読むこと」における目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。本単元は、「C読むこと」の内容「ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと」と「エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」を指導するのに適した単元である。「一つの花」は、戦争という大きな流れの中で生きた人々の、悲しみや愛情を描いた物語である。恐ろしい戦争の力を持ってしても、親が子を思う心や美しいものを尊ぶ人間らしい心を奪うことはできない。平和への願いとともに、家族の愛情と人間の真実の強さがこの作品の主題である。児童は、主人公ゆみ子を通して戦争体験に迫り、平和の重みを実感し、平和を守っていくことの大切さに気づくことができる。さらに、父母のゆみ子に対する思いを読む学習を通して、どんな状況下でも子を思う親の思いの深さは変わらないことを知り、子を思う親の心情というものを多少なりとも想像させられる教材であると考えられる。

児童は、これまで、「三つのお願い」で、叙述を基に登場人物の気持ちを想像したり、読み取ったことを生かして音読したりして学習を進めてきた。また、「白いぼうし」では、根拠となる会話や行動を明確にしながら登場人物の心情や人柄を考える学習をしてきている。子ども達は課題解決をするためのポイントとなる叙述を見つけ、それを基にして自分の考えを持つよう「一人学び」はできてきている。しかし、登場人物の様子や気持ちを豊かに読み取るということはまだ難しい。そのため、「学び合い」の場で、自分と違った考えに対する意見や良いと思った考えに対する感想等を出し、互いの考えの良さを認め合いながら活発に交流できる学び合いをさせたい。

指導にあたっては、登場人物の気持ちや場面の様子を、作品の中の大事な言葉に気をつけて想像しながら読むことに重点をおいて学習を進めていきたいと考える。「見通す」段階では、全文を通読し、初発の感想を発表し合い、学習課題を考える段階としたい。「深める」段階では、場面毎に課題を考えたときの手がかりとなる叙述を探し、それを基にして登場人物の気持ちなど自分が読み取ったことを書き込ませる活動を一人学びとして位置づけていきたい。学び合いでは、一人学びで書き込んだことを交流し、読み深めていきたい。「確かめる」段階では、読み深めてきたことを手がかりにゆみ子への手紙を書き、友達が書いた手紙の良さを見つけ合う姿勢で読み合い、まとめの音読へつなげていきたい。「広げる」段階では、戦争当時の人々の様子を描いた他の作品を読み、学習に関連した作品を進んで読む態度を育てたい。

本時の学習では、学習課題から、お父さんが本当に伝えなかったことは何かを考えさせ、お父さんの気持ちを読み取らせる学習を中心に進め、課題解決に向かわせたいと考える。「とらえる」段階では、前時で学習した見送り当日の家族の様子や、父親の気持ちを想起させ、本時の学習課題を確認させたい。「ふかめる」段階では、場面の大筋をつかませた後、「一人学び」として、課題について考えるときの手がかりとなるお父さんの会話や行動、様子にサイドラインを引かせ、そこを抜き書きして、読み取ったことを書き込ませたい。そして、「学び合い」の場では、一人学びで読み取ったことを基にして、課題に関わるお父さんの気持ちについて交流させ、ひとつの花に込めた思いについて考えさせたい。そこでは、児童が自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に注意しながら聞くだけでなく、互いの考えの良さなどにも気づかせるよう話し合いを進めることで、考えを深められる場としていきたい。「まとめる」段階では、学び合いで出されたことや板書を手がかりにして、ひとつの花をわたしたときのお父さんがゆみ子に何を伝えなかったかを書くことで、まとめをさせたいと考える。その際、自分の言葉でまとめられない児童には、学び合いで出されたお父さんの気持ちを板書から提示して、お父さんのゆみ子に対する思いを一緒に想起しながらまとめられるよう支援したい。

3 単元の見どころ

登場人物の気持ちと場面の様子を、作品の中の大事な言葉に着目し、想像しながら読む。(読ウ)
 題名に込められた作者の思いについて自分なりの考えを持ち、友だちの考えと比べる。(読工)

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
<ul style="list-style-type: none"> 戦争に関する物語を、人々の生活や考え方に興味をもって読もうとしている。(ア) 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちと場面の様子を、作品の中の大事な言葉に着目し、想像しながら読むことができる。(ウ) 題名に込められた作者の思いについて自分の考えを持ち、友だちの考えとの共通点や相違点に気付くことができる。(工) 	<ul style="list-style-type: none"> 物語の内容を理解するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べることができる。(工)

4 指導計画(11時間)

過程	学習内容	主な学習活動	学習活動における評価規準
見 通 す (2)	全文を読み、感想を話し合っ て、学習のめあ てをもつ。	全文を読んで、感想 を話し合う。	読 ア 全文を通読して感想を持ち、発表し合う中で、 それぞれの感じ方の違いを知ることができる。 A 全文を通読して感想を持ち、発表し合う中で、 それぞれの感じ方や興味・関心の違いを知ることが できる。 B 全文を通読して感想を持ち、発表し合う中で、 自分と友達の持つ感想の違いを知ることができる。
		初発の感想をもとに 学習課題を作る。	読 ア 場面毎に登場人物に関わる課題をつくることが できる。 A 場面毎に登場人物の心情に着目した課題をつく ることができる。 B 場面毎に登場人物に関わる課題をつくることが できる。
深 め る (6)	場面ごとに、 父・母・ゆみ子 の気持ちや情景 などを読み深め る。	戦時下の生活の厳し さを読み取る。	読 ウ 戦時下の生活の厳しさを読み取ることができ る。 A 文中の言葉を基にして戦時下の様子をとらえ、 生活の厳しさについて読み取ることができる。 B 戦時下の様子をとらえて読み取ることができ る。
		ゆみこに対する母の 親の気持ちを読み取 る。	読 ウ ゆみこに対する母親の気持ちを読み取るこ とができる。 A 母親の口ぐせや行動を基にして、ゆみこに対す る母親の気持ちを読み取ることができる。 B ゆみこに対する母親の気持ちが理解できる。
		ゆみ子の将来を心配 する両親の気持ちを読 み取る。	読 ウ ゆみ子の将来を心配する両親の気持ちを読み取 ることができる。 A 両親の会話や父親の行動を基にして、ゆみ子の 将来を心配する両親の気持ちを読み取ることが できる。 B ゆみ子を心配する両親の気持ちを読み取るこ とができる。

		見送り当日の家族の様子やお父さんを気遣うお母さんの気持ちを読み取る。	読 ウ 戦争へ行ってしまうお父さんを気遣うお母さんの気持ちを読み取ることができる。 A お母さんの心情が分かる叙述を基にして、お父さんを気遣うお母さんの気持ちを読み取ることができる。 B お父さんを気遣うお母さんの気持ちを読み取ることができる。
		一つの花に込められた父親の気持ちを読み取る。 (本時)	読 ウ 一つの花を渡したときの父親の気持ちを読み取ることができる。 A 一つの花を渡したときの父親のゆみ子の将来に対する思いや願いを叙述を基に豊かに想像して読み取ることができる。 B 一つの花を渡したときの父親のゆみ子を思う気持ちを想像して読み取ることができる。
		母親とゆみ子二人の暮らしぶりを読み取り母親の気持ちを想像する。	読 ウ 母親とゆみ子の暮らしぶりを読み取り、母親の気持ちを想像することができる。 A 戦争中の場面と戦後の場面を基に対比させ、ゆみ子と母親のささやかで平和な暮らしぶりを読み取り、母親の気持ちを想像することができる。 B 戦後の場面を基にして、ゆみ子と母親の暮らしぶりを読み取り、母親の気持ちを想像することができる。
確 か め る (2)	感想をまとめる。	読みの深まりを確認して、ゆみ子への手紙を書く。	書 - ア ゆみ子への手紙を書くことを通して「一つの花」で読み取ったこと、心に残っていることをまとめることができる。 A これまでの場面毎に読み深めてきたことなどを手がかりに、作品に対する感想をゆみ子への手紙という形で書くことができる。 B 作品に対する感想をゆみ子への手紙という形で書くことができる。
		手紙を読み合い、読んだ感想を書いたり発表したりした後、まとめの音読をする。	読 エ 手紙を読み合い、感想を書き、友達との感想の違いに気付くことができる。 A 手紙を読み合い、題名に込められた作者の思いについて、友達との感想の違いに気づくことができる。 B 手紙を読み合い、友達との感想の違いに気づく。
広 げ る (1)	戦争に関する他の作品を読む。	戦争に関する他の作品を読み、感想を交流し合う。	読 ア 戦争当時の人々の様子が描かれた作品を読み、感想を交流し合う。 A 戦争当時の人々の様子が描かれた他の作品に関心を持って読むことができる。 B 戦争当時の人々の様子が描かれた他の作品を読むことができる。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

一つの花に込められたお父さんの気持ちを読み取る。

(2) 展開

過程	学習活動	学習活動に対する支援等 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 具体の評価規準 </div>
とらえる (5)	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 一つの花をわたしたとき、お父さんはゆみ子に何を伝えたかったのだろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 見送り当日の家族の様子や、父親の気持ちを想起させる。
ふかめる (30)	3 学習場面を音読する。 本時の学習場面(P,9L13～ P,11)を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> 一斉読み 4 課題解決をする 場面の大筋をつかむ <p style="margin-top: 10px;">課題解決の手がかりとなる語句や文からお父さんの心情を読み取る。(一人学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題について考える手がかりになる文にサイドラインを引く。 サイドラインを引いたところを抜き書きして、お父さんの心情を読み取って書き込む。 一つの花をわたしたときのお父さんの気持ちについて考える。(学び合い) 一人学びしたことを基に、課題に関わるお父さんの心情について、読み取ったことを話し合う。 お父さんは、一つの花をわたした時、ゆみ子に何を伝えたかったのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対する考えを持たせるために、お父さんの会話、行動、様子に気をつけさせながら読ませる。 課題解決の手がかりになるお父さんの会話、行動、様子を見つけ、サイドラインを引き、抜き書きをして自分の考えを書き込む。 視写ノートを活用しながら書き込ませる。 自分の考えを述べるだけに留まらず、友だちの考えの良いところや友だちの考えを聞いて、感じたことなどについても交流させる。 「お父さんがわたしたものは一輪の花だけだったのだろうか。」と問いかけることで、一つの花に込められたお父さんの気持ちに気づかせる。
まとめる (10)	5, 本時のまとめをする。 本時の課題に対するまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> まとめを発表する。 まとめの音読をする。 読み取ったことを生かしながら、音読する。 6, 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いや板書を手がかりにして、本時のまとめをさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>具体の評価規準</p> <p>一つの花をわたしたときの父親の気持ちを読み取ることができる。</p> <p>A 一つの花をわたしたときの父親のゆみ子の将来に対する思いや願いを叙述を基に豊かに想像して読み取ることができる。</p> <p>B 一つの花をわたしたときの父親のゆみ子を思う気持ちを想像して読み取ることができる。</p> <p>C (手だて) 学び合いで出されたお父さんの心情を板書から提示して、お父さんの思いをまとめられるように支援する。</p> </div>

(3) 評価 一つの花に込められたお父さんの気持ちを読み取ることができたか。

(4) 板書計画

一つの花

今西 祐行

課題

ひとつの花をわたしたとき、お父さんはゆみ子に何を伝えたかったのだろうか。

「みんなおやりよ、母さん。おにぎりを。」

- ・ ゆみ子を泣かせたくない。
- ・ 悲しむ顔を見たくない。

「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだよ。」

- ・ ゆみ子をよろこばせたい。
- ・ 元気でいてほしい。
- ・ 美しいものを大事にしてほしい。
- ・ 幸せになってほしい。

それを見てにつこり笑うと、何も言わずに、汽車に乗って行ってしまいました。

- ・ よろこんでくれてよかった。
- ・ 少し安心した。
- ・ 美しいものを喜ぶ気持ちが嬉しい。

まとめ

お父さんはゆみ子が

- ・ 元気でいてほしい。
- ・ すすく育ってほしい。
- ・ 優しい子に育ってほしい。
- ・ 美しいものを大事にしてほしい。
- ・ 幸せになってほしい。

という気持ちで一つの花をわたした。